

12月・冬期講習の授業記録をお送りいたします。

在塾生ならびに保護者の皆様——明けましておめでとうございます。

冬期講習の慌しさの中で瞬く間に過ぎた、年の瀬——そして、また新たな一年を迎えました。このお知らせがご家庭に届くころから続々と始まる中学・高校・大学入試へ向け、あらん限りの力を傾注して受験指導にあたるとともに、引き続き在塾生の皆さんの学力向上を目指し、またその学習をしっかりとサポートするべく、個別指導会・講師陣一同、懸命に取り組んでいく所存でございます。



◆
11日間に及んだ冬期講習は1月7日(月)につつがなく終了し、1月8日(火)より平常授業に戻りました。どの教室も受験間近ということもあって、この時期特有の「緊張感」に包まれており、多くの受講生が熱心に机へ向かって勉強に勤んでおりました。

とりわけ中3受験生に対しましては追い込みの時期でもあり、当塾では各講師が渾身の力を込めてその指導に傾注いたしました。

いよいよ受験生にとっては「試練の年」となると共に、「人生の記憶に残る大切な年」ともなる1年の始まりです。自身の弱気に打ち勝って、後日に悔いの残らないよう受験日まで全力を尽くし、机に向かって遮二無二勉強していきましょう。ご父母各位のご心労もいかにばかりかと拝察いたしますが、お子様の健康面に配慮されつつ、どうぞあたたかく見守っていただければと存じます。

★中学1・2年生のみなさんへ★

『3学期の定期試験』は1年の総決算。みなさんにとって、大切な試験です。



中学1・2年生で学習する内容は、中学3年生の学習を進めていく上での基礎・土台になるという意味において、とても大切なものです。冬期講習で学習した内容を踏まえつつ日々の学習を充実させ、時間があるときには塾の自習室などを積極的に活用しながら、着実に基礎学力をつけていきましょう。

現在の埼玉県立高校入試においては、「中学1・2年生の通知表の成績(学年評定)」を実際の学力検査の点数に合算するという形態をとっています。その観点からみれば、県立高校入試というものは実際のところ中学1・2年生のうちから始まっているということが出来ます。したがって、**県立高校を第一志望にとお考えの現中学1・2年生及びその後家庭にとりまして、学年末の定期試験にあたる『3学期の定期試験』は、1年の総決算であり、また学年評定を決定づける非常に重要な試験**です。

来月下旬に行われる試験ですので、まだ先のことでありますが、今からこの試験の「大切さ」を心に留め、ぜひ塾の「定期試験対策」や「土曜無料補講」などを通じ、しっかりと勉強をした上で『3学期の定期試験』に臨んでください。

■塾からのご案内■

在塾生のご父母を対象に、「個別面談」を実施します。

2月上旬から下旬にかけ、**中3受験生を除く在塾生のご父母を対象に「個別面談」を実施**いたします。

教室長との「1:1」の形式で、お一人様につき約40分をおとりいたします。塾での現在の学習状況や今後の学習の展望・進路にまつわるご相談など幅広くお話をさせていただきたいと思っております。後日別紙にてご案内をお送りしますので、詳細はそちらをご覧ください。

学習のアドバイス【受験へ向けて】

前回は、「入試対策としてどのような勉強をするべきか」についてお話しましたが、今回は「過去問をどのように活用するべきか」というテーマで話を進めてまいります。

まずは“過去問を活用するメリット”についてお話しします。

過去問を活用するメリットは2つあります。1つ目は「漠然と不安になったり、動揺したりすることがなくなる」ということです。「正体がよくわからない」ものほど不安や動揺をかきたてます。入試では「なんとなく難しそう」「何から手をつければいいのか」といった不安を誰でも感じていると思います。しかし、過去問を解くことでその実態を知ってしまえば、本当は意外に難しくなかったり、難しくてもできなくてよい問題が多数あったりといった不安を解消する情報が手に入ります。2つ目は「目標点・計画・時間配分など具体的な戦術を組み立てられる」ということです。入試問題は単純にやさしい問題から始まってだんだん難しくなっていくような順番で作られているとは限りません。たとえば、中盤にひどく難しく手間がかかる問題があり、その後に簡単に解けてしまう問題があることもあります。また、難しく手間がかかる割には配点が低い問題も存在します。このような場合、時には難問をとばすことが高得点につながることはあります。



入試において受験生に求められることは、志望校に「合格」するために必要な点をとることであり、最高点や満点をマークすることではありません。ですから、入試問題の「正体」をよく見極め、自分の得意不得意にあわせた「戦術」を組み立てることが大切なのです。これを意識しておかないと、ペース配分を誤ってとれるはずの問題を落としたり、難問に動揺して実力を発揮できなかつたりといった学力以外の要素で損をしまいます。

次に“具体的な過去問の活用法”について、県立高校と私立高校に分けてお話しします。

まずは県立高校についてですが、埼玉県の場合、他の県と比べて分量が多いことが特徴です。そこで1~2年分(できれば古いもの)を、時間を気にせず解いて、どのくらいかかるか計ってみてください。そしてどこで時間を削ればいいのかを分析してから、他の年度の問題をきちんと時間を計って解いて答え合わせをしてみましょう。そのとき目標の点数がクリアできているようであれば、解けなかった問題についてはあまり気にする必要はありません。目標の点数に達していなければ、担当の講師にどこを強化すればいいか相談してください。また、英語と数学については「学力検査問題」と「学校選択問題」に分かれたために従来とは出題傾向や難易度が異なってきましたので、その辺りを考慮しながら取り組むようにしましょう。

私立高校については状況によって活用の仕方が異なります。推薦基準を満たして個別相談で高校側から合格の確約またはそれに近い返答をいただいている場合には、よほどひどい点数をとらない限り合格できますので、問題形式(マークシートか記述式か/作文やリスニングはあるかなど)を確認したうえで、最近の2~3年分を解いておけば十分です。ただし、推薦基準があくまで出願の目安で合格が確約されていない場合や、推薦基準にとどかず一般受験をする場合は、当日の点数が合否に直結しますので、しっかりと対策が必要になります。ただし、その傾向は高校によって様々ですので、やはり担当の講師とよく話し合ってください。



教室長日記

自分に合った大学って…?



このお正月に、テレビ等で箱根駅伝を見た方々も多いと思います。母校の名誉、また自身の誇りをかけて、またあこがれの舞台に立つことが出来た喜びとともに走る選手たちの姿は、毎年見る者に大きな感動を与えてくれます。

昨年10月の予選会に参加した大学は39校あったそうです。うち上位11校が予選会通過校枠として本選に出場しました。残念ながら28校は大学としては本選に出場できなかったわけですが、箱根路を走って日本中に母校の名前を広めながら走りたいたいという思いは、選手たち全員に共通しているでしょう。

特に箱根駅伝は、関東の大学スポーツ競技会としてだけでなく、新年の恒例行事としても注目度が非常に高いので、ローカルな大学や新設の大学にとっては、全国的に知名度やイメージを上げる絶好のチャンスでもあります。

すでに有名になっている大学にはみなさんが入りたがりますが、そこで自分がいちばん学びたいことを学べるとは限りません。逆に校名を今先程初めて見たような大学でも、非常に特色のある校風や研究内容、さらには自分がいちばん学びたいことを心ゆくまで学べる環境をそなえているかもしれません。

過去に実際、箱根駅伝で優秀な成績を収めたあとに難易度が急に上がった大学がいくつもあります。知名度が上がったことで、多くの受験生の目に留まるようになったのです。

「〇〇大学って、どんな大学だろう？」と少しでも疑問があったら、ぜひ大学のホームページを見てみる、また資料を請求してみる、さらに興味を持ったらオープンキャンパスの日程を調べてぜひ実際に足を運んでみるのはいかがでしょうか。その時に「箱根駅伝で大学名を知った」と伝えれば、出場選手たちの努力も報われるに違いありません。

(航空公園校 安達)